

熊本県八代市方言の格： 初期報告

山田高明
(一橋大学大学院/NINJAL)

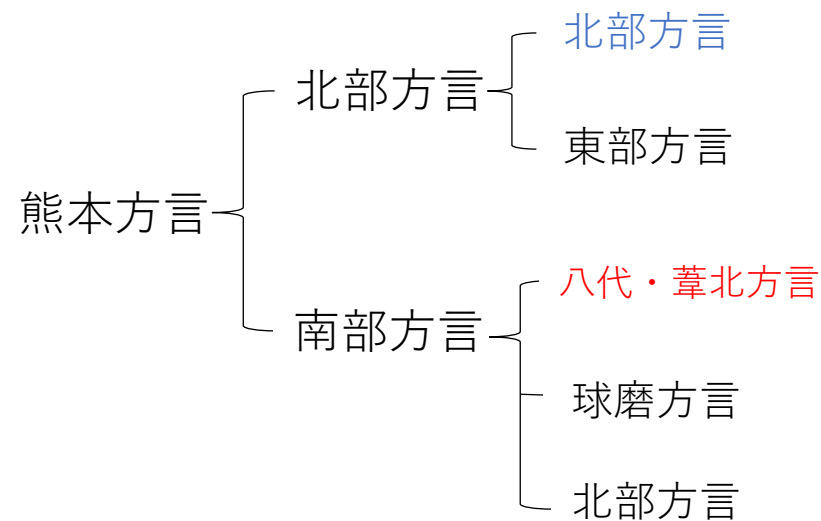
「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」研究発表会
(2021年6月13日、於：オンライン)

本発表の概要

- 「基本配列」 (坂井2019aほか) 下での八代市方言の格標示の調査
- 主語標示
 - =ga/=no; 交替には有生性と他動性が関与
 - 尊敬表現も =ga/=noの分布に関与
- 目的語標示
 - =ba/=o; おそらく自由交替
 - 一部の環境でのみ無形も許される

八代市方言の概要

- 肥筑方言
- 熊本方言をさらに区画する場合には**南部方言**（秋山1983）



調査概要

- 調査方法
 - オンラインでの翻訳式調査
 - 国語研「危機言語プロジェクト」調査票
 - 坂井（2019a, 2019b）をもとに作成した調査票
 - 下地（2016）による対格標示用調査票
- 調査は2021年3月から断続的に実施
- 話者情報
 - H氏：昭和35年生まれ・女性・八代市出身・外住歴無し

先行研究

日琉諸語の格配列の類型

- 自動詞主語 (S)、他動詞主語 (A)、他動詞直接目的語 (P)
 - ✓どれとどれが同じ標示になり、どれが別の標示になるか

タイプ	分裂要因	方言
Type 1 中立型		波照間
Type 2 中立型/対格型	有生性	東北・北関東・近畿 (京都)
Type 3 対格型		中国・四国・ <u>九州</u> ・奄美・宮古
Type 4 対格型/分裂S型	有生性	沖縄・与那国
Type 5 対格型/分裂S型/三立型	有生性	<u>九州 (甌島、熊本)</u>

下地 (近刊) による文焦点環境下での日琉諸語の格配列の類型
※下線は発表者による

熊本県全体の傾向（秋山・吉岡1991）

- 主語標示には=ga/=noがある
- 現象文で=noが使われる
 - (1) 雨ノ降りよる（秋山・吉岡1991:187）
- 尊敬表現では=no、卑罵表現では=ga
 - (2) カミナリサンの落ちらシた（秋山・吉岡1991:210）
「雷さんが落ちられた」
 - (3) 台風ヤツがうっくざした（秋山・吉岡1991:210）
「台風めがぶち壊しやがった」

八代方言のガノ交替（吉村2006）

- 八代方言の=**ga**/=**no**の交替を統語論から分析
 1. 述語の主語（叙述主語）には=**no**が用いられる
ex. 東京の物価ノ高か。（吉村2006:197）
 2. 大主語や焦点を表す場合には=**ga**が用いられる
ex. 東京**ガ**物価ノ高か。（吉村2006:198）
 3. 叙述主語は大主語を超えて移動できない
ex. *物価ノ東京**ガ**高か。（吉村2006:202）

八代方言のガノ交替（吉村2006）

- 吉村（2006）が検討する環境は主語や述語の統制に偏りがある
 - ✓有生性や他動性の影響の検討の余地がある
- 吉村（2006）の「八代方言」の地域
 - ✓旧「八代郡宮原町、鏡町、竜北町」
 - ✓八代市と八代郡は異なるアクセント体系（平山1951, 発表者の調査）
- 話者の年代の違い？

熊本市の格体系（坂井2013, 2019a）

- 典型的な格配列を観察するために構文環境を統制（基本配列）
- 高齢層の体系
 - ✓ 主格・対格は基本的に無形標示（ハダカ）は許されない
 - ✓ =gaと=noは動作主性に応じて使い分けられる
- 若年層の体系
 - ✓ ハダカが許容されない話者 vs. 許容される話者
 - ✓ =ga/=no交替の要因のバリエーション
 - 動作主性 vs. 動作主性+A/P相互識別
 - ✓ 自動詞分裂を起こしている

本発表の観察環境と統制する変数

- 「基本配列」 (坂井2019a:45)
 - 1.主節
 - 2.中立叙述 (非焦点・非主題) ;文焦点
 - 3.主語非尊敬
 - 4.アスペクト接辞 (-jor, -tor) 無し
- 2の確認のために「どうしたの？」への返答の形で調査

本発表の観察環境と統制する変数

- 有生性階層

人称代名詞>>親族・固有名詞>>人間普通名詞>>動物>>非生物

- AとPの有生性の関係（下地2016, 近刊、下線/太字は発表者）

	Pの有生性	AとPとの相対的有生性
<u>友達</u> は 外 を見ている。	無生	順行（ <u>人間</u> >無生）
<u>うちの犬</u> は 外 を見ている。	無生	順行（ <u>動物</u> >無生）
<u>友達</u> は うちの犬 を見ている。	動物	順行（ <u>人間</u> >動物）
<u>その鹿</u> は うちの犬 を見ている。	動物	等位（ <u>動物</u> =動物）
<u>友達</u> は 太郎 を見ている。	人間	等位（ <u>人間</u> =人間）
<u>うちの犬</u> は 太郎 を見ている。	人間	逆行（ <u>動物</u> <人間）

本発表の観察環境と統制する変数

- 他動性階層

A（他動詞主語） >> Sa（意志自動詞文主語）

>> Sp（非意志自動詞文主語） >> P（他動詞文目的語）

本発表の観察環境と統制する変数

- 有生性と他動性のクロス階層

	人称代名詞	親族・呼称	親族・非呼称	固有名詞	人間普通	動物	無生物
A							
Sa							
Sp							
P							

調査結果：八代市方言の格体系

八代市方言の目的語標示

八代市方言の目的語標示

- Pは基本的に=**ba**で標示され、ハダカは許容されない

(4) tomodatya {soto=**ba**/*soto} miyuru.

友達.TOP {外=**ACC1**/*外} 見ている

「友達は外を見ている。」（**順行**：人間A>無生P）

(5) son sika=wa uti=n {inu=**ba**/*inu} miyuru.

その 鹿=TOP うち=GEN {犬=**ACC1**/*犬} 見ている

「その鹿はうちの犬を見ている。」（**等位**：動物A=動物P）

八代市方言の目的語標示

- Pは基本的に=**ba**で標示され、ハダカは許容されない

(6) uti=n inu=wa {taroo=**ba**/*taroo} miyoru.

うち=GEN 犬=TOP {太郎=**ACC1**/太郎} 見ている

「うちの犬は太郎を見ている。」 (**逆行**: 人間A<動物P)

八代市方言の目的語標示

- 上記例文は=0とすべて交替可能
 - ✓ =0は共通語などからの借用形か

(4') tomodatya soto=0 miyuru.
友達.TOP 外=ACC2 見ている
「友達は外を見ている。」

八代市方言の目的語標示

- ただし、一部の環境ではハダカでの標示も可能である
 - ✓ 詳細はまだわからないが、慣用的なものに限られるか？

(7) an hita itumo {sake=**ba**/**sake**} nomasu.
あの 人.TOP いつも {酒=**ACC1**/**酒**} 飲まれる
「あの人はいつも酒を飲まれる。」

(8) soke {watasi=**ba**/**watasi**} turete itte.
そこ.DAT {私=**ACC1**/**私**} 連れて 行って
「そこに私を連れて行って。」

八代市方言の目的語標示：まとめ

- Pは基本的に=baで標示される
 - ✓共通語などからの借用と考えられる=o；自由交替
 - ✓慣用的(?)なものに見られるハダカ
- これらの形式の交替には有生性は関与していない
- アクセント調査などで高齢層の話者から=obaも使うことは聞いている

八代市方言の主語標示

八代市方言の主語標示：名詞層の標示

	親族・呼称	親族・非呼称	固有名詞	人間普通	動物	無生物
A	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga/=no
Sa	=ga	=ga	=ga	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no
Sp	=ga	=ga	=ga	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no

- =gaはすべての組み合わせで使える
- =noはクロス階層の下位層の掛け合わせで使用可能

八代市方言の主語標示：親族呼称名詞

- A/Sa/Spでも =ga のみ許容 (=no やハダカは許容されない)

(9) tosan=**ga** sara=**ba** watta.

お父さん=**NOM** 皿=**ACC** 割った

「お父さんが皿を割った。」 (**A**)

(10) tosan=**ga** dete itta.

お父さん=**NOM** 出て いった

「お父さんが出ていった。」 (**Sa**)

(11) tosan=**ga** taoreta.

お父さん=**NOM** 倒れた

「お父さんが倒れた。」 (**Sp**)

八代市方言の主語標示：親族非呼称名詞

- A/Sa/Spでも =gaのみ許容 (=noやハダカは許容されない)

(12) ototu=**ga** sara=**ba** watta.

弟=**NOM** 皿=**ACC** 割った

「お父さんが皿を割った。」 (**A**)

(13) ototu=**ga** dete itta.

弟=**NOM** 出て いった

「弟が出ていった。」 (**Sa**)

(14) ototu=**ga** taoreta.

弟=**NOM** 倒れた

「弟が倒れた。」 (**Sp**)

八代市方言の主語標示：固有名詞

- A /Sa/Spでも =gaのみ許容 (=noやハダカは許容されない)

(15) X=**ga** sara=**ba** watta.
X=**NOM** 皿=**ACC** 割った
「Xが皿を割った。」 (**A**)

(16) X=**ga** dete itta.
X=**NOM** 出て いった
「Xが出ていった。」 (**Sa**)

(17) X=**ga** taoreta.
X=**NOM** 倒れた
「Xが倒れた。」 (**Sp**)

八代市方言の主語標示：人間普通名詞

- Aは=gaのみ許容 vs. Sa/Spは=noも使える

(18) kodon=**ga** sara=**ba** watta.

子供=**NOM** 皿=**ACC** 割った

「子供が皿を割った。」 (**A**)

(19) kodon{=**ga**/**=no**} dete itta.

子供{=**NOM1**/**=NOM2**} 出て いった

「子供が出ていった。」 (**Sa**)

(20) kodon{=**ga**/**=no**} taoreta.

子供{=**NOM1**/**=NOM2**} 倒れた

「子供が倒れた。」 (**Sp**)

八代市方言の主語標示：動物名詞

- Aは=gaのみ許容 vs. Sa/Spは=noも使える

(21) neko=**ga** inu=**ba** hikkaita.
猫=**NOM** 犬=**ACC** ひっかいた
「猫が犬をひっかいた。」 (**A**)

(22) neko{=**ga**/**=no**} nigeta.
子供{=**NOM1**/**=NOM2**} 逃げた
「猫が逃げた。」 (**Sa**)

(23) neko{=**ga**/**=no**} sinda.
猫{=**NOM1**/**=NOM2**} 死んだ
「猫が死んだ。」 (**Sp**)

八代市方言の主語標示：無生物名詞

- A/Sa/Spとも =ga も =no も使える（ハダカは基本的にダメ；後述）

(24) ya{=ga/=no} mannaka=ba utinuita.
矢{=NOM1/=NOM2} 真ん中=ACC 打ち抜いた
「矢が真ん中を打ち抜いた。」(A)

(25) taihuu{=ga/=n} kita.
子供{=NOM1/=NOM2'} 来た
「台風が来た。」(Sa)

(26) ki{=ga/=n} taoreta.
木{=NOM1/=NOM2'} 倒れた
「木が倒れた。」(Sp)

八代市方言の主語標示：名詞層の標示

	親族・呼称	親族・非呼称	固有名詞	人間普通	動物	無生物
A	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga/=no
Sa	=ga	=ga	=ga	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no
Sp	=ga	=ga	=ga	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no

- =gaはすべての組み合わせで使える
- =noはクロス階層の下位層の掛け合わせで使用可能
 - ✓人間普通名詞・動物名詞ではSa/Sp
 - ✓無生物名詞ではA/Sa/Sp

八代市方言の主語標示：人称代名詞の標示

	一人称	二人称
A	=ga	=ga
Sa	=ga	=ga
Sp	=ga	=ga

- 人称代名詞の場合は=gaのみ
- =noおよびハダカは許容されない

八代市方言の主語標示：一人称の標示

- A/Sa/Spでも =ga のみ許容 (=no やハダカは許容されない)

(27) watasi=**ga** sara=**ba** watta.

私=**NOM** 皿=**ACC** 割った

「私が皿を割った。」 (**A**)

(28) koke watasi=**ga** suwatta

ここ.**DAT** 私=**NOM** 座った

「ここに私が座った。」 (**Sa**)

(29) gamadasite watasi=**ga** taoreta.

働いて 私=**NOM** 倒れた

「働いて、私が倒れた。」 (**Sp**)

八代市方言の主語標示：二人称の標示

- A/Sa/Spでも =ga のみ許容 (=no やハダカは許容されない)

(30) ata=**ga** sara=**ba** wattadoo.

私=**NOM** 皿=**ACC** 割っただろう

「あなたが皿を割ったでしょう？」 (**A**)

(31) koke ata=**ga** suwatta.

ここ.**DAT** あなた=**NOM** 座った

「ここに私が座った。」 (**Sa**)

(32) amma gamadasuto ata=**ga** taoruttai.

あまり 働くと あなた=**NOM** 倒れるよ

「あまりにも働くと、あなたが倒れるよ。」 (**Sp**)

八代市方言の主語標示：小まとめ

	人称代名詞	親族・呼称	親族・非呼称	固有名詞	人間普通	動物	無生物
A	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga/=no
Sa	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no
Sp	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no

- =gaはすべての組み合わせで使える
- =noはクロス階層の下位層の掛け合わせで使用可能

八代市方言の主語標示：ハダカ

- Sがハダカになる場合（下地2019a:2）
 1. あ、電車 {ガ/φ} 来た。（存現文の主語）
 2. 頭 {ガ/φ} 痛い。（二重主語文の内主語）
 3. 時計 {ガ/φ} 壊れた。（無生物・対象的な主語）

八代市方言の主語標示：ハダカ

- 存現文のサブタイプ（下地2019a:16-17）
 - a. あ、電車 {ガ/φ} 来たよ。（出現・発生・消滅）
 - b. 虹 {φ/ガ} 出てる（天候）
- 下地（2019b）の例文セットを用いて八代市方言でも調査

八代市方言の主語標示：天候文

- 有形標示もハダカもOK

(33) {ame=n/ame} hutte kita.

{雨=NOM/雨} 降って きた

「雨が降ってきた。」

(34) {kaze=n/kaze} tuyoka.

{風=NOM/風} 強い

「風が強い。」

八代市方言の主語標示：消滅・出現文

- 有形標示もハダカもOK

(35) {densya=n/densya} kita.
 {電車=NOM/電車} 来た
 「電車が来た。」

(36) {saihu=n/saihu} naka.
 {財布=NOM/財布} 無い
 「財布が無い。」

八代市方言の主語標示：二重主語文

- 有形標示も **ハダカ** もOK

(37) {atama=n/**atama**} itaka.

{頭=NOM/**頭**} 痛い

「(私は) 頭が痛い。」

(38) {ie=n/**ie**} hirokane.

{家=NOM/**家**} 広いね

「(君は) 家が広いね。」

八代市方言の主語標示：定/不定の関与

	人称代名詞	親族・呼称	親族・非呼称	固有名詞	人間普通	動物	無生物
A	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga/=no
Sa	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no
Sp	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no

- 固有名詞と人間普通名詞が=noの分布の境目
✓固有名詞と人間普通名詞は定性の切れ目にもなっている
- 調査の限り、定性は=ga/=noの分布に**関与していない**

八代市方言の主語標示：定/不定の関与

(19) kodon{=ga/=no} dete itta.

子供{=NOM1/=NOM2} 出て いった

「子供が出ていった。」

(39) an kodon{=ga/=no} taoreta.

あの 子供{=NOM1/=NOM2} 倒れた

「あの子供が倒れた。」

八代市方言の主語標示：まとめ

- 一部を除いてハダカは許容されない
 - ✓存現文（天候、出現・消滅）
 - ✓二重主語文の内主語
- =gaと=noの分布には有生性と他動性の両方が関与
 - ✓人間普通名詞・動物名詞ではSa/Spで=noも許容
 - ✓無生物名詞ではA/Sa/Spで=noも許容

尊敬接辞が付いた場合

尊敬接辞が付いた場合

- =ga/=noの分布と尊敬表現の関係
 - ✓ 「格助詞の[ノ]と[ガ]は、(…)[ノ]は尊敬の場合に、[ガ]はやや見下げの場合にと使い分けられる」 (秋山・吉岡1991:210-211)
 - ✓ 坂井 (2013) による熊本市方言でも、尊敬接辞が付くことによって、=noが許容される領域が広がる

八代市方言の主語標示：尊敬接辞アリ

	親族・呼称	親族・非呼称	固有名詞	人間普通	動物	無生物
A	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no	-	-
Sa	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no	-	-
Sp	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no	-	-

- 八代市方言の尊敬接辞の一つ：-as
- 尊敬接辞が付くと、=noがほぼすべての領域で許容される

八代市方言の主語標示：尊敬接辞アリ

- (40) tosan{=**ga**/=**no**} sara=ba war-**as**-i-ta.
お父さん{=**NOM1**/=**NOM2**} 皿=ACC 割る-**HON**-IFX-PST
「お父さんが皿をお割りになった。」(A)
- (41) tosan {=**ga**/=**no**} dete ik-**as**-i-ta.
お父さん{=**NOM1**/=**NOM2**} 出て 行く-**HON**-IFX-PST
「お父さんが出ていかれた。」(Sa)
- (42) tosan {=**ga**/=**no**} taorer-**as**-i-ta.
お父さん{=**NOM1**/=**NOM2**} 倒れる-**HON**-IFX-PST
「お父さんが倒れられた。」(Sp)

八代市方言の主語標示：尊敬接辞アリ

非尊敬

	親族・呼称	親族・非呼称	固有名詞	人間普通	動物	無生物
A	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga/=no
Sa	=ga	=ga	=ga	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no
Sp	=ga	=ga	=ga	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no



尊敬

	親族・呼称	親族・非呼称	固有名詞	人間普通	動物	無生物
A	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no	-	-
Sa	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no	-	-
Sp	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no	-	-

まとめ

まとめ

- 主語標示

- ✓=gaと=noの分布には有生性と他動性の両方が関与：=noはクロス階層の低いほうのみで許容
- ✓ハダカは存現文・二重主語文の内主語でのみ許容
- ✓尊敬接辞が付くと=noの領域が広がる

- 目的語標示

- ✓基本的に=baで標示され、=oは自由交替
- ✓慣用的なものではハダカも可

まとめ

- 八代市方言の格配列

	人称代名詞	親族・呼称	親族・非呼称	固有名詞	人間普通	動物	無生物
A	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga/=no
Sa	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no
Sp	=ga	=ga	=ga	=ga	=ga/=no	=ga/=no	=ga/=no
P	=ba/=o	=ba/=o	=ba/=o	=ba/=o	=ba/=o	=ba/=o	=ba/=o
格配列	対格型				三立型		対格型

まとめ

- 日琉諸語の格配列階層（下地 近刊:207-208）
 - ✓ある方言が以下の階層上のある格配列パターンを持てば、その左側の格配列パターンも必ず持つ
- 対格型 > 分裂S型 > 三立型
中立型

まとめ：八代市方言は三立型を含むか

- 典型的な三立型はSが無形になる
- ヒンディー語における三立型

a. laRkaa kal aay-aa
boy yesterday come.AOR-SG.M
‘The boy came yesterday.’

b. laRke ne laRkii ko dekh-aa
boy.OBL ERG girl ACC see-SG.M
‘The boy saw the girl.’

(World Atlas of Language Structure, Chapter 98A: Alignment of case marking of full NPs)

まとめ

• 周辺方言の格配列との比較

	親族・固有	人間普通	動物	無生物
菊池市泗水	対格型			
熊本市（高）	三立型	対格型		
熊本市（若）	分裂S型			三立型
八代市	対格型	三立型		対格型
甕島里	分裂S型		三立型	対格型
甕島手打	対格型		三立型	対格型

菊池市泗水方言（岩下2017）、熊本市方言（坂井2019）、甕島里方言/手打方言（坂井2019）に基づき発表者がまとめなおした

謝辞

- 調査にご協力いただいた話者の方
- 発表にあたり多くのコメント・ご助言をくださった下地理則先生、九州大学下地ゼミの皆様
- 国立国語研究所共同プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」

略号一覧

- : 接辞境界、 = : 接語境界、 ACC : 対格、 AOR : アオリスト
DAT : 与格、 ERG : 能格、 GEN : 属格、 HON : 尊敬
INF : 非定形、 M : 男性、 OBL : 斜格、 PST : 過去、 SG : 単数
TOP : 主題

参考文献

- 秋山正次（1983）「熊本の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一（編）『講座方言学 9 九州地方の方言』 207-235. 国書刊行会.
- 秋山正次・吉岡泰夫（1991）『暮らしに生きる熊本の方言』熊本日日新聞社.
- 岩下怜子（2017）「熊本県菊池市泗水方言における主格標示の使い分け」卒業論文, 九州大学.
- 坂井美日（2013）「現代熊本市方言の主語標示」『阪大社会言語学研究ノート』 11:66-83.
- 坂井美日（2018）「九州方言における主語標示の使い分けと動作主性」日本言語学会第156回大会予稿集.
- 坂井美日（2019a）「熊本市方言の格配列と自動詞分裂」竹内史郎・下地理則（編）『日本語の格標示と分裂自動詞性』 37-66. 東京：くろしお出版.
- 坂井美日（2019b）「甑島方言の格について」窪園晴夫・木部暢子・高木千恵（編）『鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相』 49-81. 東京：くろしお出版.
- 下地理則（2016）「格体系を調べる方言調査票の開発・利用と問題点：九州・琉球方言の事例報告」日本言語学会第153回大会予稿集.
- 下地理則（2019a）「現代日本語共通語（口語）における主語の格標示と分裂自動詞性」竹内史郎・下地理則（編）『日本語の格標示と分裂自動詞性』 1-36. 東京：くろしお出版.
- 下地理則（2019b）「日琉諸語の格体系の多様性の記述と説明モデルの構築を目指して」日本語文法学会第20回大会パネルセッション.
- 下地理則（近刊）「日琉諸語の格体系：概観と類型化」木部暢子・竹内史郎・下地理則（編）『日本語の格表現』くろしお出版.
- 吉村紀子（2006）「熊本八代方言から日本語を見る：主格の「が」・「の」をめぐって」*Scientific approaches to language 5: Main Clause Phenomena in Japanese and Syntactic Theory*. 195-211. 神田外語大学言語科学研究センター.